

令和5年度第4回 苫小牧市公共交通協議会（書面会議）

令和 6年 1月15日（月）～17日（水）

次 第

議 題

【協議事項】

- 議案第1号 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の
事業評価（案）について
（樽前予約運行型バス運行についての自己評価）

地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の
事業評価（案）について
（樽前予約運行型バス運行についての自己評価）

樽前予約運行型バス（樽前ハッピー号）の運行について、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の自己評価を行う。

事業の実施にあたり、国土交通省の補助金を活用していることから、補助金交付要綱の規定に従い、本協議会として事業の自己評価を行う。

○活用している補助金

地域公共交通確保維持改善事業費補助金

第2編 地域公共交通確保維持事業

第1章 陸上交通

第2節 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

○評価対象事業期間

令和4年10月1日から令和5年9月30日まで（令和5補助年度）

○事業評価（案）

議案第1号 別添資料 参照

※ 評価項目④及び⑤の評価基準（A～Cの3段階評価）

- ④ A：事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
B：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。
C：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった。

- ⑤ A：事業が計画に位置付けられた目標を達成した。
B：事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。
C：事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月 日

協議会名: 苫小牧市公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名: 道南バス(株)	<p>系統名: 樽前予約運行型バス</p> <p>苫小牧市樽前地区及び錦岡地区を運行区域とし、地域内幹線系統(複数市町村にまたがる路線バス)、市内バス路線、JRとの接続を効率的に行い、利用者の広域的移動を可能とする。</p>	<p>樽前地区の小学校へ通学する児童に対する市内路線バス定期半額補助(利用促進事業)を継続。</p> <p>また、利用者満足度の向上を目指し、事業者と接遇や各種対応についての協議、町内会や小学校と利用に関する情報交換を適宜行った。</p>	<p>A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B ●利用者数 目標: 48人/日 実績: 23人/日</p> <p>●満足度 目標: 88% 実績: 88%</p> <p>1日当たりの利用者数については、地域の人口減少や小学校の特認児童減少などの影響により、目標を達成することができなかった。満足度については、目標を達成した。</p>	<p>・樽前地区の小学校へ通学する児童に対する市内路線バス定期補助(利用促進事業)を継続して実施する。</p> <p>・令和5年度に実施したアンケート調査の結果や、町内会、学校等との協議を踏まえ、可能な範囲で運行時刻の調整や運行経路の見直し等を行い、利用者の利便性向上に努め、利用者数増加と満足度向上を図る。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 1月 日

協議会名：	苫小牧市公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>苫小牧市においては、他都市と同様に自動車依存型のライフスタイルの定着等に起因し、バス利用者は毎年減少傾向にある。また、市の郊外部においては、バスの運行便数に対し利用者数が著しく少ない非効率的な運行路線が存在し、地域の生活の足であるバス路線について廃止などが懸念されている。しかし、令和5年3月末時点での高齢化率は30.27%となっており、今後総人口が減少傾向にある一方で、高齢者数の上昇傾向が続くことから、将来にわたり交通弱者等の生活の足を確保するための生活交通ネットワークの構築が急務となっている。</p> <p>市西部に位置する樽前地区では、路線バスの錦西樽前ガロー線と学童輸送用のスクールバスが運行されていたが、路線バスの利用者が著しく少ないことに加え、運行ルートの大部分が重複していたことなどにより、両バスの運行見直しが必要であった。</p> <p>これらを踏まえ、平成23年3月策定の苫小牧市地域公共交通総合連携計画に、樽前地区における路線バスとスクールバスの一元化による「デマンド型コミュニティバスの導入」を位置付け、平成24年4月から地域公共交通確保維持改善事業によるデマンド型コミュニティバスが本格運行している。</p> <p>これまでも、利用者ニーズに合わせ路線・ダイヤの改正、予約時間の延長など、サービス向上に取り組んできたが、さらにコミュニティバスの重要性が高まるものと考え、平成26年3月策定の第2次苫小牧市地域公共交通総合連携計画に「デマンド型コミュニティバスの維持・改善」を位置付け、利便性の高い生活交通ネットワークの維持に努めている。</p> <p>また、令和3年6月策定の苫小牧市地域公共交通計画において、「将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本理念に掲げ、理念に基づく取組の1つとして「樽前予約運行型バス(樽前ハッピー号)運行事業」を位置付け、バス路線網を補完する交通サービスを継続することとしている。</p> <p>引き続き、地域公共交通確保維持改善事業により、樽前地区における生活交通手段を維持・確保し、地域住民の通院、通学、買物などの日常生活の移動や、地域間幹線系統等との接続による広域的な移動を可能にするなど、住民生活の足を将来にわたり存続させていくことが必要不可欠である。</p>

苫小牧市公共交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

目的: 樽前地区における生活交通手段を維持・確保し、地域住民の通院、通学、買物などの日常生活の移動や、地域間幹線系統等との接続による広域的な移動を可能にする。

必要性: 苫小牧市地域公共交通計画において基本理念に掲げる「将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの形成」に向けた取組の一つに位置付けており、住民生活の足を将来にわたり存続させていくために、バス路線網を補完する交通サービスを継続していくことが必要不可欠である。

生活交通確保維持改善計画の目標

1日あたりのバス利用者数

48人/日(令和5補助年度: 令和4年10月～令和5年9月)

バス利用者満足度

88%以上(令和5年度調査)

令和5年度事業概要

系統名: 樽前予約運行型バス

苫小牧市樽前地区及び錦岡地区を運行区域とし、地域内幹線系統(複数市町村にまたがる路線バス)、市内バス路線、JRとの接続を効率的に行い、利用者の広域的移動を可能とする。

地域公共交通の現況

- ・ JR室蘭本線(錦岡駅)
- ・ 道南バス(株)
(市内5路線、錦西営業所)
(登別温泉・苫小牧線、錦岡西)
- ・ 樽前予約運行型バス
(錦岡駅・錦西営業所・錦岡西との接続)

協議会開催状況

令和5年1月17～20日 第29回協議会を開催
・地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)の事業評価(案)について(樽前予約運行型バス運行についての自己評価)

令和5年6月20～27日(書面会議) 令和5年度第1回協議会を開催
・樽前予約運行型バス(樽前ハッピー号)計画申請(案)について

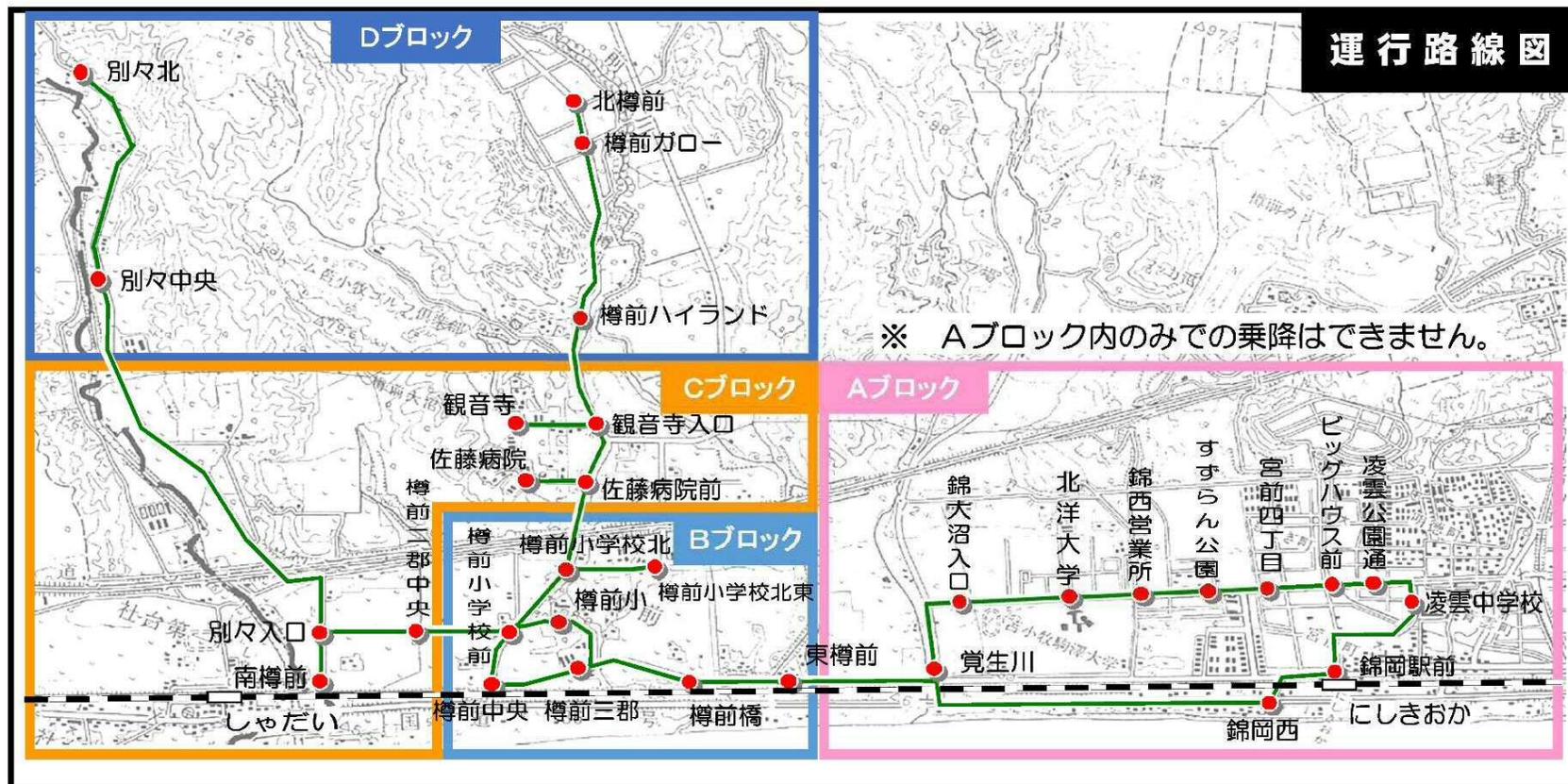
令和6年1月15～17日(書面会議) 令和5年度第4回協議会を開催
・地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)の事業評価(案)について(樽前予約運行型バス運行についての自己評価)

令和5年度事業の実施状況

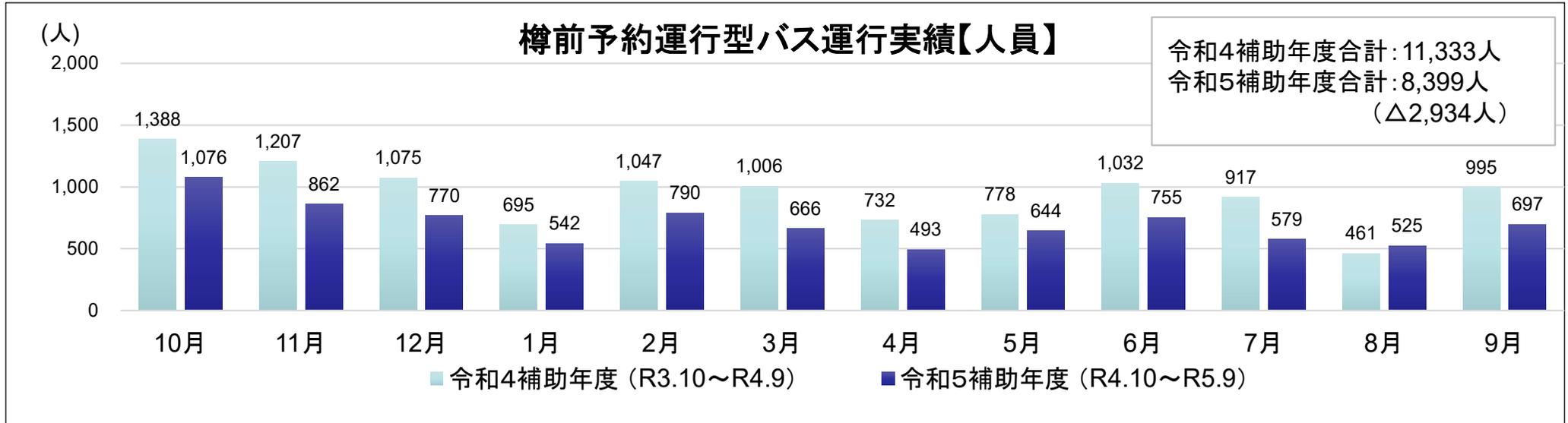
1) プロセス、創意工夫

- ・利用者及び町内会などを対象にアンケート調査を実施し、要望や満足度を把握
- ・樽前予約運行型バス利用促進事業(樽前小学校特認児童市内路線定期券半額補助)を継続

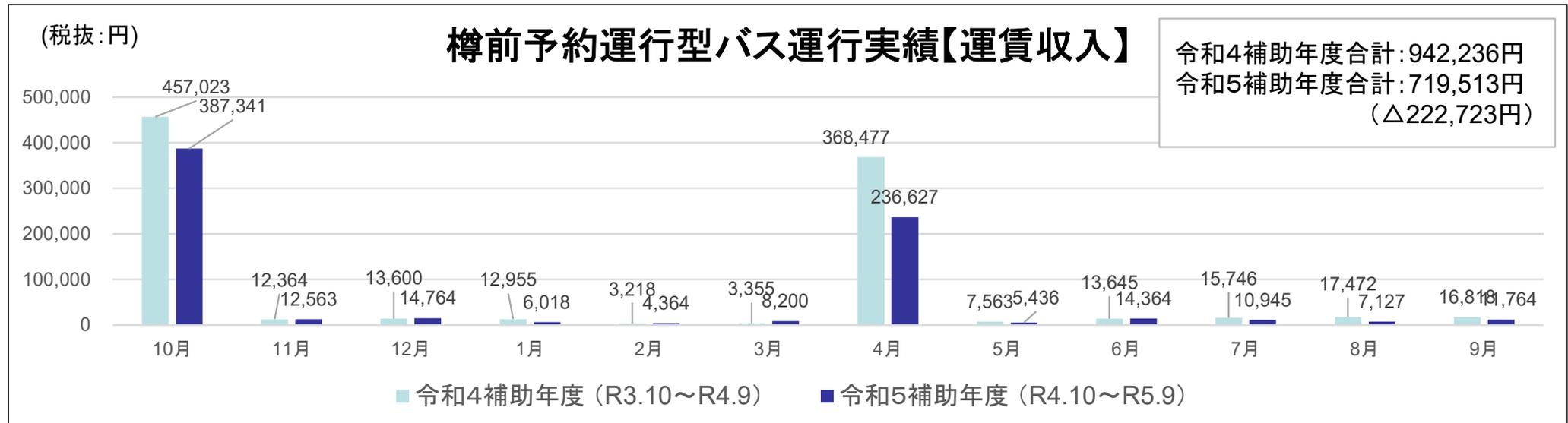
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

●利用者数

目標:48人/日 実績:23人/日

●満足度

目標:88%以上 実績:88%

1日当たりの利用者数については、地域の人口減少や小学校の児童減少などの影響により、目標を達成することができなかった。

満足度については、目標を達成した。

7) 事業の今後の改善点

・樽前地区の小学校へ通学する児童に対する市内路線バス定期補助(利用促進事業)を継続して実施する予定。

・令和5年度に実施したアンケート調査の結果や、町内会、学校等との協議を踏まえ、可能な範囲で運行時刻の調整や運行経路の見直し等を行い、利用者の利便性向上に努め、利用者数増加と満足度向上を図る。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄